



全教北九州

新聞 全教北九州
全教北九州市教職員組合
発行責任者 中川喜久子
2023年4月21日

全教北九州 検索 給特法の改正を考える 特集 この新聞はすべての教職員に配布しています

「給特法」、「教職調整額」、「残業代」知っていますか？

文科省は、人材確保のための待遇改善について本格的に検討を始めました。4月13日有識者会議は、残業代を認めない代わりに、給与を4%上乘せする制度が今の教員の働き方に見合わないとして、約50年ぶりの見直しや新たな手当を創設する案を示めました。改正の方向性を見守るだけでなく、教職員自ら法改正の在り方を考え、意見を発信していくことが大切です。

有識者会議での二つの待遇改善の論点とは

有識者会議での待遇改善の論点は、今の教職員の給与が働き方の実態に見合っていないということ、まず4%の教職調整額の見直しを論議しようというものです。そもそも4%の根拠は、57年前(1966年)の平均残業時間が8時間だったことから算出されたもので、2016年度の平均残業時間の実態(小学校で59時間、中学校で81時間)とかけ離れていることや、約50年間このことが放置されていたことも問題です。

もうひとつの論点が、職務や勤務の実態を踏まえた「新たな手当」を創設するというものです。学級担任、研修主事、情報教育担当主任などの職務に対して手当をつけるものです。しかし、この職務手当、当然職務に就かなければ給与は増えません。この「職務や勤務状況に応じた給与のメリハリの強化」は、教育現場で大切にされてきた協働性の崩壊や職員間の分断を招き、教育現場の混乱や教育力の衰退にもつながりかねません。

給与を増やすだけでは「教職の魅力向上」「人材確保」にはつながらない

全教北九州は、教育委員会との交渉の際、毎年教職員の待遇改善を要求しています。その中で「教職員の働きに見合う適正な賃金」も要求してきました。一方で、「賃金の問題だけでは人材確保につながらない」ということも話しています。先に全教が行った勤務実態調査「長時間過密労働解消に必要な施策」の質問項目で、「時間外手当での支給」を要望する声は46.4%でしたが、それ以上に「教職員の数を増やす」(89.7%)や「全体的な業務縮減」(66.1%)、「受け持ち授業時数の削減」(62.5%)など仕事量を削減し、ゆとりある職場環境の実現のための施策の方が上位を占めています。北九州の教育現場では病気休職・病気休暇の教職員も増加傾向です。決して働きやすい労働環境とはいえません。一方、実効ある働き方改革推進や職場環境改善の実現は、法改正を待たなくても北九州独自でもできることはいくつでもあり

ます。教職員の要求に根差した的確、適正な待遇改善の実現を望みます。

将来の充実した働き方のイメージを持つことができる労働環境整備を

論点整理は、教職調整額をわずかな引き上げで「残業代なし」は維持し、「給与のメリハリ」の強化でもっと働かせ、しかも教員同士がまとまらない状態をつくる方向にむいています。このまま中央教育審議会での議論が、論点整理の方向性そのまま進めば、私たちが望むような待遇改善は期待できません。

文科省は、2022年度の勤務実態調査を踏まえ、給与制度の見直し案を6月の「経済財政運営と改革の基本方針」に盛り込むことを目指しています。さらに中教審に具体案を諮問後、25年の通常国会で法改正を行う予定です。

法改正までは2年足らず。全教とも共闘し、魅力的で、充実した働きがいのある職場の実現のための提案や要求を強め、法改正議論に参加していきましょう。

勤務時間内で

授業準備がしたい

全教北九州と全日本教職員組合(全教)は、教員1人の持ち授業時数に上限を設定し、子どもたちの教育に必要な授業準備や研修時間を確保することを提言しています。また授業準備にかかる時間を勤務時間内に確保することを北九州教職調整委員会と文科省に求めています。

小学校の上限	中学校の上限	高校の上限
20時間	18時間	15時間

全教北九州市教職員組合(全教北九州)
〒802-0771 北九州市中区東長門一丁目5番7-209号
TEL: 093-292-4776 FAX: 093-292-7648
E-mail: kitakyu01@educos.jp

南西諸島

4月6日、陸上自衛隊のヘリコプターが宮古島近海で事故を起こしました。熊本に司令部を置く第8師団長が乗っていました。第8師団は、熊本・宮崎・鹿児島3県の防衛警備や災害派遣などにあたり、有事の際には機動的に対応する「起動師団」として沖縄県など南西諸島への展開も想定されています。

自衛隊は「南西シフト」と呼ばれる軍備強化を南西諸島に進めています。ここ10年で、種子島に近い馬毛島、奄美大島、沖繩本島、宮古島、石垣島、与那国島へと次々にミサイル基地建設を進めてきました。今年3月には馬毛島を除く南西諸島に陸上自衛隊ミサイル部隊の基地が準備され、弾薬も運び込まれました。南西諸島に配備された自衛隊ミサイル部隊の軍事力は射程600kmの「専守防衛の範囲」を超え敵基地攻撃が可能で射程2000kmの長距離ミサイル配備へと軍拡を加速しつつあります。南西諸島の問題ではなく自分事として捉えたいです。

道徳教材「星野君の二塁打」

2024年度から使用する道徳の教科書検定で、3社の道徳の教科書に掲載されている教材が掲載されないことになりました。(北九州市では現在は採択していません)どこが問題だったのか、一緒に考えてみましょう。

(打てる、きつと打てるぞ!) 星野君は、強くバットを握り直した。
(監督の指示はバントだけれど、今は打てそうな気がするんだ。どうしよう...)。

ピッチャーが第一球を投げ込んできた。星野君は反射的に、思いきりバットを振った。

バットの真ん中に当たったボールは、ぐーんと伸びて、セカンドとショートの間をあっやかに抜いた。ヒット! ヒット! 二塁打だ。ヒットを打った星野君は、二塁の上に直立して、思わずガッツポーズをとった。この一打が星野君の所属するチームを勝利に導き、市内野球選手権大会出場を決めたのだ。

その翌日も、チームのメンバーは、練習を休まなかった。決められた午後一時に町のグラウンドに集まって、焼けつくような太陽の下で、肩慣らしのキャッチボールを始めた。

そこへ、監督の別府さんが姿を現した。そして、

「みんな、今日は少し話があるんだ。こつちへ来てくれないか。」と言って、大きな檜の木陰であぐらをかいた。

選手たちは別府さんの周りに集まり、半円を描いて座った。

「みんな、昨日はよくやってくれたね。おかげで、ぼくらのチームは待望の選手権大会に出場できることになった。本当なら心から「おめでとう」と言いたいところだが、ぼくにはどうもそれができないんだ。」

別府さんの重々しい口調に、選手たちはただだごではなさそうな雰囲気を感じた。別府さんは、膝の上に横たえたバットを両手でゆっくり回していたが、それを止めて静かに言葉を続けた。

「ぼくがこのチームの監督になると君たちは喜んでぼくを迎えてくれると言った。そこでぼくは君たちと相談して、チームの約束を決めたんだ。いったん決めた以上は、それを守るのが当然だと思う。そして試合のときなどにチームの作戦として決めたことは絶対に守ってほしいという話もした。君たちは、これにも気持ちよく賛成してくれた。そうしたことを君たちがしっかり守って練習を続けてきたおかげで、ぼくらのチームもかなり力がついてきたと思ってる。だが、昨日ぼくは、どうしても納得できない経験をしたんだ。」

ここまで聞いた時、星野君は何となく(これは自分のことかな)と思ったけれども自分が叱られるわけはないと思いついた。(確かにぼくは昨日バントを命じられたのにバットを振った。それはチームの約束を破ったことになるかもしれない。しかしその結果、ぼくらのチームが勝ったじゃないか。)

その特別府さんは、膝の上のバットをゴツンと地面に置いた。そして斜め右前に座っている星野君の顔を正面から見た。

「はっきりの言おう。ぼくは、昨日の星野君の二塁打が納得できないんだ。バントで岩田君を二塁へ送る。これがあの時チームで決めた作戦だった。星野君は不服らしかったが、とにかくそれを承知した。いったん承知しておきながら勝手に打って出た。小さく言えば、ぼくらの約束を破り、大きく言えばチームの輪を乱したことになるんだ。」

「だけど、二塁打を打って、このチームを救ったんですから。」

と、星野君のヒットでホームを踏んだ岩田君が助け舟を出した。

「いや、いくら結果がよかったからといって、約束を破ったことには変わりはないんだ。いいか、みんな、野球はただ勝てばいいんじゃないだよ。健康な体を作ると同時に、団体競技として協同の精神を養うためのものなんだ。犠牲の精神の分らない人間は、社会へ出たって、社会をよくすることなんか、とてもできないんだよ。」

別府さんの口調に熱がこもる。そのほおが赤くなるにつれ、星野君の顔からは、血の気が引いて行った。選手たちは、みんな頭を深く垂れてしまった。

「星野君はいい選手だ。おしいと思う。しかし、だからといって、ぼくはチームの約束を破り輪を乱した者を、そのまましておくわけにはいかない。」

「ここまで聞くと、思わずみんなは顔を上げて別府さんを見た。星野君だけが、じつとつむいたまま石のように動かなかった。

「ぼくは、今度の大会で星野君の出場を禁じたいと思う。そして、しっかりと反省してほしいんだ。そのためにぼくらは大会で負けるかもしれない。しかし、それは仕方ないことと、思っでもらうほうがいい。」

星野君はじつと涙をこらえていた。別府さんを中心とした少年選手たちの半円は、しばしそのまま動かなくなっていた。(紙面の都合上漢字表記を増やしています)

さて、みなさんだったら、どのよう

に授業を展開していきますか?..

教科書には「チームの一員として」や「よりよい学校生活、集団生活の充実」という言葉が最初から書いてあります。学習指導要領の「先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合っ

てよりよい学級や学校をつくることにも、様々な集団の中での役割を自覚して集団生活の充実を目指す」という内容をこの教材で指導しなさいということでしょう。

この教材は、東京書籍・廣済堂あかつき、学校図書3社の教科書に掲載されています。また、原作は児童文学者の吉田甲子太郎(1894~1957)で1947年に雑誌に掲載されたものです。

この教材は長年論議されてきました。日大アメフト部の悪質タックル事件などもありスポーツ界の古い体質を教材として扱うことは良くないとされ、24年度からの教科書には掲載されませんでした。しかし今掲載されているこの教材を、どこかの学校で教科書通りに指導しているとしたらと思うと、いてもたってもおられない気持ちになります。

検定を受けた教科書でさえ物議をかもす教材が掲載されていることや、授業準備に時間がかからない学校現場で安易に授業をしてしまう危険性など、この問題が突きつけることは大きいです。

道徳は、2015年に学習指導要領が一部改訂され、特別の教科として位置づけられました。全面実施は小学校が2018年度、中学校が2019年度からで、他の教科のように数値で評価するのになじまないとして、新たな枠組みである特別の教科という形を取っています。改めて道徳の授業について考えてみたいものです。

4月7日(土) 戸畑区において、「せんせいの学校開校式」を開催しました。コロナ禍でオンライン開催が続いていましたが、久々の対面で行うことができました。

「しくじり先生」と題した失敗談を聞いたあと、校種を交えて数人一組になり対話をする中で、「どうして先生になったか」や「しくじったこと」などを語り合いました。「しくじりせんせい」の話では、「若い時に信頼されようとして無駄な力を出して失敗したが、保護者や同僚、子どもたちを頼り、持つていける力を借りることで、お互いの信頼が増し良い関係を築くことができるようになった。」と、参加者に伝えられました。



せんせいの学校開校式

その後は、校種に分かれて対話の時間、集まって給与や権利の話、抽選会と続きました。始業式の翌日、学校で事務仕事をしたい中、集まる中で肩の力を抜いて違った視点で教師の仕事を考える時間になりました。